



函館からトラスト



Nov.2010 No.28

公益信託 函館色彩まちづくり基金 平成21年度助成活動が決定

第17回は3件の助成が決定

平成22年2月20日(土)午後1時から3時までの間、函館市地域交流まちづくりセンターフリースペースにおいて、公益信託 函館色彩まちづくり基金 平成20年度(第16回)助成活動の5団体の最終報告会が開催されました。参加人数40名ほどで、プロジェクターを使って、スクリーンに楽しい活動の様子などが映し出され、貴重な成果が報告されました。

※運営委員会で話し合われた各助成団体に対する詳細コメントはホームページ (<http://www.h-nisshou.com/kara/>) をご覧ください。

平成20年度(第16回)助成活動の5団体

- ①NPO法人はこだて街なかプロジェクト…空地に花を咲かせよう(助成金額25万円)
- ②函館大門地区に桜を植える会…函館大門地区に「はる(春・張る)」を呼ぶ桜で潤う街並みづくり(助成金額25万円)
- ③はこだて外国人居留地研究会…函館の街並みに生きる箱館開港(助成金額30万円)
- ④函館市公民館活性化ネットワーク「イキネット」…函館市公民館活性化事業(助成金額15万円)
- ⑤ペンキ塗りボランティア隊…谷地頭商店街の町並み色彩改善Part4一町やペンキ塗りワークショップ・XVI(助成金額55万円)

その後、平成21年度(第17回)の助成活動申込み団体のアピールが行われました。同会場の研修室において運営委員会が開催され、3件の助成申し込みに対し、助成が決定しました。

平成21年度(第17回)助成活動の3団体

	申請者	助成希望テーマ	希望金額	助成金額
1	ペンキ塗りボランティア (中村 歩)	谷地頭商店街の町並み色彩改善 Part5 一町屋ペンキ塗りワークショップ・XVII	583,000円	583,000円
2	NPO法人はこだて街なかプロジェクト (理事長 山内 一男)	空地に花を咲かせよう	330,000円	330,000円
3	はこだて外国人居留地研究会 (岸 甫一)	函館の町並みに生きる箱館開港	348,000円	348,000円
計			1,261,000円	1,261,000円

応募団体への総評



運営委員長
木村 健一

(公立はこだて未来大学教授)

西部地区にしっかりと根ざした堅牢な3つのプロジェクトを採択できたことが今年度の最大の成果です。

「色彩によるまちづくり」を具現化し、次世代や地域への広がりを確かなものにしてきた「ペンキ塗りボランティア隊」。一見素朴に見える「空き地に花壇を作る」活動を通じて、確実に地域コミュニティの力強い協働関係を構築しつつある「はこだて街なかプロジェクト」。西部地区の歴史積層を明らかにすることで、今現在の姿に一層の魅力を顕在化させようとする試みである「はこだて外国人居留地研究会」。

いずれも、俯瞰的に眺めるまちの作り方

とは一線を画する、虫の目(等身大の目線)によるボトムアップ型の提案です。からトラ発祥のこすりだしDNAを形を変えて継承していると考えます。

あたかも、ずっと前から存在したかのような現在の景観が、せめぎ合いの中で辛うじて継続されてきた事、その主導権を常に地域が握ってきたのだという事を象徴的に表しているようにも思えてきます。今後は、それぞれの素晴らしい取り組みが、シナジー効果を生み出しながら持続可能性を維持していくことが望まれています。

NPO法人 はこだて街なかプロジェクト 空地(からち)に花を咲かせよう

理事長 山内 一男

📌 活動の目的

函館西部地区の7町の空き地に花を咲かせるプロジェクトを続けて5年目をむかえました。空き地を私達は「からち」といいますが、ある人は宝の土地をもじったのかといいます。きっとその土地はかつて人が生き生きと暮らし、函館西部地区の歴史的な街並みの一因を担っていたと考えます。

空き地のままの姿は西部地区は似合いません。そして地域コミュニティ崩壊が心配です。

街なかプロジェクトは「からち」に住民と一緒に花を植え、花を楽しむことで地域を元気にし、花が咲き彩を感じた時、街並みが以前より良い環境に変化した事を知って欲しいと考えています。そして、街並みやまちづくりの主役は、自分たちであることを、この活動の実践を通して知って欲しいのです。

📌 活動の内容

【3月下旬】弁天町の空き地は継続して花を咲かせます。所有者に了承を得ることが大切、所有者は電話口で快い返事もらおう。新規の大町、電車通りの空き地も所有者から借用の了承もらおう。

【4月上旬】花を咲かせるプロジェクトの趣旨、花壇のデザインなどのワークショップ開催案内を両町会に送付する。大町町会からようやく返事がきた。

【4月下旬】弁天町会でワークショップ開催。弁天町は昨年に続いて弁天台場をデザイン。大町は開港150周年事業に協賛し、空き家をデザイナーの作品発表会場に取り組んでいるハコトリのマークに決定した。

【5月上旬】花壇のデザインを花のレイアウト作業実施、花の種類・株数を決定。植栽用の土・肥料・花の株・花壇枠を発注。除草剤散布を依頼。

【6月6日】花壇を設置、植栽土搬入。花壇のデザインを分かりやすいように、糸を張って分けをする。花の株を植えるだけにし準備完了。

【6月7日】生憎の小雨。昨日から予想されていた為、小雨でも植栽作業を行なうことを決定していたが参加者数が心配。そして開始時間の9時、なんと心配をよそに雨具を用意して身支度した人たちが大勢集合していた。弁天町、そして大町へ場所を移して作業がつづいた。

参加者の経験値、手際の良さも相まって予定より早くに終了。小学生大丈夫かな。

花は全て一度刈り取られる。根に栄養を与えて花の株を強くして花を咲かせるためである。花の株の植え方や育て方を教えていただいた、市役所の笠原女史のアドバイスを今も引き継ぎ実践している。

水遣り、雑草取り、花摘み。暑い夏に向けて会員と地域の人が心を配る。

【7月18日】都市計画家協会が函館で「まちづくりキャラバン」を開催、大町、弁天町の花壇をまわる。街並みの更新に今出来る事はなんなのかが話題となる。

【8月下旬】秋まで花を咲かせるために、花見会の後、花壇の全ての花を摘み取る。住民の方は不安そう。

【11月上旬】いよいよ花壇の花を撤去。花の株をお裾分けし、越冬の方法を教える。プロジェクト終了。

📌 活動の成果と今後の展望

私達の取組みの趣旨が理解されるようになり、弁天町町会の有志によって花壇が引き継がれることになった。地域環境改善なのかもしれないが、自分達の街とコミュニティの再生の機会が生まれたと考えている。

今後も地域の身のまわりにまちの不具合を感じた時、一緒に花壇に花を植え、咲かせた人たち同志でコミュニケーションを取って欲しいと考えている。このような行動が生まれることが出来れば、この活動の本来の目的を達することになる。

まだエリアが残っているので頑張っていこうと思っている。



函館大門地区桜を植える会 函館大門地区に「はる(春・張る)」を呼ぶ桜で潤う街並みづくり

代表 今千尋

📌 活動の目的

(1) 函館の緑化面積が少ない中、函館西部地区活性化の一環として、函館西部地区・大門地区などの空洞化する空き地を対象に、日本を代表する桜の木を地域の住民や子供たちと共に植樹し、新しい景観を構築し、桜に憩う人々に西部地区に愛着と親近感をよりもっていただくと共に美しい街函館の街づくりに寄与する。

(2) 桜の木々の下に、地域住民・保育園の園児達・施設入所の高齢者・商店街の人々や函館の街を訪れる若者や観光客が集うことができるふれあいの場とし、心のバリアフリー、癒しを提供できる空間とする。

(3) 昨年の活動に続き、新たに桜の植樹に適した場所を選定・検討し、さらに数箇所の植樹を目的とする。

(4) 都市の空洞化が進む中、街を桜の木で美しく、人々が集い、人々の暮らしの中で桜の木の成長を市民がともに見守ることで美しい街、心の通う街づくりの一翼を担う。

(5) 函館五稜郭公園の桜は有名であるが、西部地区にも是非桜の木がほしいといつかねてからの地域の念願を実現化し、函館のどこでも春になると桜の花がみられるようにすることで心の広がる街づくりに貢献する。函館の陸の玄関口である、函館駅前・大門地区に桜があることで観光PR効果も期待できる。

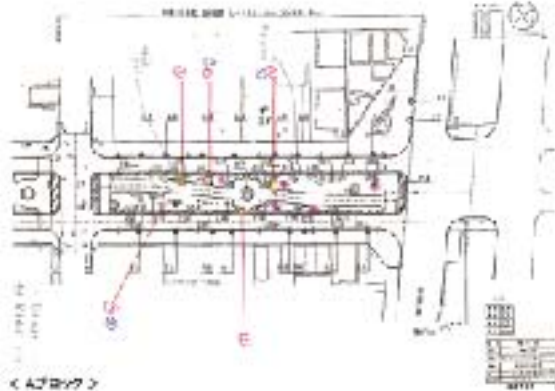
(6) うるおいのある美しい空間を演出することによって、大門地区に住みたい人や建物を建てたい人、お店を持ちたい人々が集い、将来の街の活性化につながる。

(7) 子供たちが桜の植樹にふれることによって、子供たちの植物や人に対する温かい心が育まれる。

(8) 桜の植樹を中心に、年間を通じて地域交流・地域活性化・環境保全・徳育の一環として活動する。

活動の内容

- ・西部地区の調査(第二次植樹候補地の選定)
 - ・候補地の地権者へ植栽事業の趣旨説明および承諾の取り付け
 - ・選定地へ桜の植樹、植樹祭(参加者50名)
(ソメイヨシノ 昨年度を含め計10本の桜を植樹)
- 【内訳】
ソメイヨシノ 幹周18cm植栽 3本
ソメイヨシノ 幹周≒30cm植栽 2本 計5本
- ・常時、賛同者を募り、桜で行こう街並みづくりに向けてPR活動



今後の展望

函館大門地区桜を植える会の活動は、まだ始まったばかりです。まずは西部地区に桜を植樹することからスタートし、その後は桜に限定せず季節感を感じられる色々な花や木の植樹・緑化活動を西部地区で長期的に進めていきます。そして緑化活動を通じて地域交流、地域の活性化、環境保全、徳育の一環として活発に活動していきたいと考えております。



活動の成果

昨年よりも幹周の大きい桜 ソメイヨシノを5本植樹することができ、昨年に引き続き計10本の桜の木を植樹する事ができました。

植樹祭も盛大に行われ函館市より感謝状も頂きました。

また植樹祭では、近くの保育園の園児達も参加し、自分達が小学校に入ったら花見に来たいと目を輝かせていました。桜が咲くのが私達も本当に楽しみです。

2009年の活動報告③

はこだて外国人居留地研究会 函館の町並みに生きる箱館開港

代表 岸 甫一

活動の目的

本会は、函館旧市街地(西部地区)の独自の異国情緒を今も生きている歴史遺産ととらえ、地元函館の目線で、かつての外国人居留地また居留外国人と住民との交流などについて知られざる事実を明らかにすることを目的としている。この目的達成のため、旧市街地の歴史遺産の魅力を新たな歴史的切り口で掘り起こし、その研究にもとづく外国人居留地マップを作成し、市民が旧市街地の歴史について気軽に興味を持って学ぶ機会を提供したいと考えている。さらに、外国人居留地マップを使った散策会により、市民とともに旧市街地の街並みの中に、開港や外国人居留地の歴史の再発見を試みる。

とくに2009年は「開港150周年」の記念事業として第2回外国人居留地研究会全国大会を開催し、一般市民に開放した記念講演会・研究報告会を開催し、全国レベルでの研究交流の推進を目指す。

活動の内容

4月～6月は「外国人居留地マップ:アメリカ編」作成作業と並行し、5月の総会で「開港150周年」記念事業の内容や協賛金・広告料募集の働きかけなどを決議した。「外国人居留地マップ:アメリカ編」は、前年度から準備を進めていた岸会員を中心に数回の編集会議の検討を経て、7月1日に発行した。このマップは函館日米協会を通して在札幌アメリカ領事にも渡った。

8月9日、第1回の西部地区散策会(午前)と中華会館の見学会・報告会(午後)を実施した。クイズも準備した散策会は当初、夏

休み中の小学生高学年を対象としたが、宣伝が遅れ、急遽大人対象に切り替え23名の参加があった。中華会館の報告会では小川会員によるデジタルアーカイブを活用した明治20年代の清国領事館、同徳堂(中華会館の前身)の説明に耳を傾けた。

8月に外国人居留地研究会全国大会のポスター・チラシを作成し、9月から10月初旬にかけて4回の実行委員会を実施し、10月10日～11日の大会本番を迎えた。神戸、長崎、横浜、東京、大阪などの各居留地研究会の会員や研究者を含めて10日の記念講演は約130名参加、11日の研究報告会・総合討論会は約80名参加と、量・質ともに研究会挙げての取り組みとなった。詳細は大会記録集を参照されたい。さらに「開港150周年」記念事業の一環として10月24日清水会員の説明による「船見町の開港維新の古道を歩く」散策会を実施した。これには予想を超え約60名が参加した。

11月～2月は「外国人居留地マップ:イギリス編」作成と全国大会記録集の作成に取り組んだ。とくに「イギリス編」の取り組みは清水会員を責任者として複数会員が執筆し、1月中旬から毎週のように編集会議を開いたので、これまで以上に各編集委員の意見を紙面に反映できた。全国大会記録集も「開港150周年」記念事業として相応しい内容となったと自負している。

活動の成果

2009年の「はこだて外国人居留地マップ」は、「アメリカ編」と「イギリス編」の2種類を発行したが、とくに「イギリス編」は、会員の知恵を集めて作成できた。その意味で、リーフレットの編集会議自体が事実上、学び合う研究会となってきたといえる。昨年度に続き、これらのリーフレットは、市内の小中高の学校、大学、図書館、学術研究機関に寄贈し、市民にも「まちづくりセンター」で無料配布した。リーフレット発行や全国大会などの当会の活動は、マスコミでも紹介され、年々市民の認知度が高まってきたことを実感している。

また2回の散策会の成功は、いずれも中尾仁彦氏の援助により「箱館歴史散歩の会」の方々と連携できたことが大いに与っている。このように他団体と連携することで相乗効果を上げられることも学んだ。さらに外国人居留地研究会全国大会を開催し、全国レベルでの研究交流ができたことは会員に自信をもたらし、会の発展の大きな契機となった。開港150周年関連の事業で、交流団体等から当会に対して知的支援が求められたこともあった。



置づけて、会員の知恵を出し合って作成したい。リーフレット「中国編」を意識して、中華会館の他、清国領事館跡、南京屋敷跡、中国人が住んだ大町居留地など中国人ゆかりの史跡を掘り起こし、その成果を盛り込んで散策会を実施したい。

2010年後半は、2月の「外国人居留地マップ」(第6号)発行をめざす。次は「フランス編」という案を予定している。



今後の課題

2010年前半は、9月の「函館中華会館創立100周年記念シンポジウム」(共催事業)に合わせて「はこだて外国人居留地マップ:中国編」発行を予定している。その際、編集会議を「イギリス編」と同様に会員相互の意見を自由に討議する勉強会と位

2009年の活動報告④

函館市公民館活性化ネットワーク イキ！ネット 函館市公民館活性化事業 公民館マチネ・シンポジウムの開催

代表 松石 隆

活動の目的

現在、函館の音楽文化振興に対して市民が利用できる規模のホールが不足しており、市民の文化交流・発信拠点確保が急務になっています。函館市公民館は、昭和8年に青年会館として開館して以来、文化交流・発信拠点として永年利用されてきましたが、10年前に函館市芸術ホールができたこと、駐車場がないこと、また、西部地区の人口が減ってきた事などから、利用されなくなってきていました。

そこで、函館市公民館に必要な改修をほどこし、本来の目的である生涯学習に加えて、文化交流発信機能を付加して活性化しようと考えました。これにより、歴史的建造物を生かした文化芸術の創造、市民が主役の文化芸術の振興、ひいては文化芸術を活かしたまちづくりが実現すると考えられます。

助成事業では、公民館マチネの開催とフォーラムを開催し、上記の目的を達成する機運を盛り上げようとするものです。

公民館マチネとは、函館市公民館において良質の音楽会を安価で提供し、函館の音楽文化振興に貢献すると共に、多くの市民に函館市公民館へ足を運んでもらうことにより、函館市公民館の現状を知ってもらい、聴衆・出演者へのアンケートから文化交流・発信拠点としての利用可能性と問題点を、抽出しようとする取り組みです。また、公民館フォーラムは、公民館マチネで得られたアンケート結果や専門家の意見を聞きながら、広く一般の方達と、函館市公民館のあり方について考えようとする会です。

活動の内容

助成対象期間に3回の公民館マチネ、2回のフォーラムを開催しました。出場者数延べ36名、来場者数延べ480名となり、累計出演者数は116名、来場者数は2,363名に上ります。また、アンケートが累積で1,447通集まり、統計解析に十分な数のご意見が集まりました。

活動の成果

一流の演奏家に低廉な出演料で演奏して頂き、多くのお客様にご来場頂けたことを考えると、函館の音楽文化振興に大きな貢献があったと考えられます。また、公民館マチネを参考にし、多くの本格的な音楽会が開催されるなど、函館市公民館を音楽文化発信拠点としての利用が定着してきました。

また、ご来場者のみならず、把握しているだけでも10を超える関連新聞記事により、函館市公民館の存在とその現状、また函館市公民館の活性化が必要とされている現状を広く市民に知って頂けたことと思います。公民館マチネをはじめとするイキ！ネットの活動は、逐次ホームページ <http://www3.to/ikinet/>に掲載され、この内容は広く全国に発信されており、函館市公民館を知ってもらうことに役立っています。これらの活動により函館市公民館の改修・再利用にたいする機運が大いに盛り上がったと感じています。

これを受けて、今年度は函館市教育委員会は公民館耐震診断調査、および公民館のあり方に関する市民懇話会を開催しました。イキ！ネットを含むさまざまな立場の利用者、専門家からの建設的な意見が重ねられ、現代の公共施設として当然備えるべき機能や性能を満たすような改修について、具体的な提言がなされ、教育長に提出されました。



← 独自に国有地を借りた臨時駐車場

最後に

今年度は、からトラからの助成金は今年度限りとの条件付きで助成を受けました。3年間に合計81万円の助成を受けましたが、この助成なくしては、函館市公民館の改修・再活用の道筋は作れませんでした。他の歴史的建造物と同様、老朽化を理由に壊されるところを、今、改修・再活用の道筋が立ったことによる意義は大きいと考え、助成に改めて感謝しているところです。

助成により実施した公民館マチネは単なる音楽会ではありません。町並み保存と文化振興の手段です。そうなるように、さまざまな工夫をして、また各方面の協力を得て、具体的に成果を残しました。また、助成により開催したフォーラムにより、音楽関係者以外の意見を聞く機会も持ち、その議論がきっかけとなり、広く市民の意見を聞くことを求める陳情を市議会に提出し、教育委員会主催の「懇話会」という形で実現しました。今後、函館市民が本当に必要とし、函館市ならではの函館市公民館になるように見守っていきます。

イキ！ネットの目的は函館市公民館の改修ではありません。函館の歴史的建造物と、函館が今まではぐくんできた音楽文化による、函館ならではの文化振興とまちづくりが目的です。からトラからの助成は無くなりますが、今後ともからトラからの助成によって得た成果を目的につなげるように尽力したいと考えています。



← 公民館マチネ第拾回
～オペラde公民館～

2009年の活動報告⑤

ペンキ塗りボランティア隊

谷地頭商店街の町並み色彩改善Part4 一町家ペンキ塗りワークショップ・XVI

代表 相場 奈津子

活動の目的

数年がかりで谷地頭商店街全体の建物外観のペンキを塗り替えることを通して、誰の目にもあきらかな都市景観の改善と、ペンキ色彩による商店街再生への手がかりとすること、さらには将来を担う学生たちの実践的なまちづくり教育の一助とすることをめざすものである。

活動の内容

私たちの活動は1994年から毎年続けておこなってきたが、2006年から、建物が連携する通りの「町並み」色彩の改善という新たな展開のスタートを切った。具体的には、谷地頭商店街を対象とし、岡嶋一夫・谷地頭町会会長と市中益雄・同副会長を仲立ちとして、地元谷地頭町会との連携をはかり、地域全体の将来像を描きながら、2006年は谷地頭町会館と市中屋餅店、2007年は新山家住宅とフクイ電器商会、2008年はやぶした生花店とママショップクリーニングと菊地精肉店の計7棟を塗り替えた。今回は、この谷地頭商店街のペンキ塗り替え活動の第4弾としておこなったものである。いつものように、塗り替え対象建物の選定、塗り替える色の検討とシュミレーション・色彩の決定、ペンキ塗り替えの準備-足場の手配、ペンキ塗料の手配、刷毛等の用具の準備、ペンキ塗りボランティアの募集-等の段取りを経て、2009年7月25日(土)26日(日)の2日間にわたり、ペンキ塗り替えを実施した。塗り替えたのは、昨年までの2棟と連続する「鮎処江戸松」と、商店街の入口となる交差点の角地に建つ「生活協同購買」と、「笹木洋品店」の計3棟である。ペンキ塗りの活動には、引き続き地元の学生や一般市民にも参加していただけるように配慮し、延べ92人という大勢の参加者を迎えることができた。

活動の成果

今回の活動によって、谷地頭商店街の入口の両側2棟が塗り替えられ、函館山に向かって右側が計5棟塗り変わったことで(写真参照)、左側と同じく連続して5棟以上塗り変わるまでの将来像が見えてくる結果となった。外壁の基調色をアイボリー食に統一し、建物の一部を強調色として建物ごとに異なる色を使用する、という色彩計画の方針は、写真にあるとおり、背景の函館山の緑に映えて、明るく、まとまりのある町並みをつくると同時に、各建物が個性を表現し、リズムをつくる、というように目に見えるかたちで、その成果があらわれつつあると自負している。



塗り替え前の町並み



明るく、個性的になった塗り替え後の町並み

今後の展望

次年度に、函館山に向かって右側の通りで、今回塗り替えた3棟に連続して2棟塗り替えられるならば、向かいの通りの連続する5棟とあわせ、通り全体の町並みとして、将来の商店街のイメージをより強く、鮮明に地元の人々に思い起こさせることができるだろう。そのことで、地元住民の町並みに対する意識をさらに高めていくことが期待される。



TOPICS 140年の時を超えて、甦った 箱館奉行所

箱館奉行所は、幕府が北方防備の拠点として江戸時代後期に建てられた役所ですが、箱館戦争を経て完成からわずか7年でその姿を消しました。今年7月29日、140年の時を超えて五稜郭に甦りました。復元工事は全国から結集した職人達の匠の技により4年もの歳月をかけて行われました。往時の建築を忠実に再現した奉行所は、そのたまたまから建物だけではなく歴史を学ぶきっかけとなる貴重な函館の歴史遺産となっています。

<http://www.hakodate-bugyosho.jp/>



第18回助成活動募集のお知らせ

**みんなで汗を流せる
まちづくり活動をしませんか？**

公益信託も**あと3回**となってまいりました。いままでの皆様の研究・活動の成果を踏まえて函館の町に元気な風を吹き込んでみませんか？

■募集内容

函館のまちづくりに関わる市民レベルの様々な活動や企画の**実践**。そのために必要とされる研究。最終報告会への参加等による交通費は支給されませんので、その旨あらかじめご了解ください。

1. 建物の色彩や意匠の改善に寄与する活動
2. 町並みの改善・保全に寄与する活動
3. 知的財産の発掘と紹介に寄与する活動

但し、活動の成果に顕在性(衆目に触れる)と持続性(数年間)が見込まれる実践的活動であることを重視します。

■応募期間

平成22年11月～平成22年12月末日

■審査方法

当基金の運営委員会により審査・選考を行い、住友信託銀行が決定します。今回は**西部地区を重点整備エリアと位置付け、ここでの活動を優先します**ので、あらかじめご理解の上ご応募ください。

尚、応募された方には運営委員会の直前に、説明・アピールの機会が設けられます。

■選考結果の発表

応募者全員に個別に通知します。ニュースレター「から」29号でも発表します。

■助成金額

原則として、1件当たり10万円～100万円まで。

■運営委員

- ◎木村 健一(公立はこだて未来大学 教授) ※運営委員長
- ◎足達 健夫(専修大学北海道短期大学 准教授)
- ◎小原 雅夫(元町画廊 経営、元 函館中部高等学校教諭)
- ◎小山 一彦(小山設計所 経営)
- ◎森下 満(北海道大学大学院工学研究院 助教)
- ◎荒井 俊明(函館市都市建設部長)

■申込書提出先

住友信託銀行 リテール企画推進部 公益信託チーム
〒100-6611 東京都千代田区丸の内1-9-2
(グランドトウキョウサウスタワー)
TEL 03-3286-8218 FAX 03-3286-8792

■活動報告

助成を受けた活動は平成24年2月の報告会にて発表をお願いします。

また、活動成果はニュースレター「から」にも掲載しますので、事務局あてに報告書と写真等の資料を提出してください。

尚、会計報告(助成金使用報告書)は平成24年2月までに住友信託銀行あてに提出してください。

■応募用紙請求先

函館からトラスト事務局
〒040-0001 函館市五稜郭町19-15
TEL 0138-52-8411 FAX 0138-52-8170
※下記ホームページからもダウンロードできます。

編集夜話

春から夏にかけて起こった景観問題は、函館の景観行政の手法を問い直すきっかけになったのではないかと。

伝統的建造物群保存地区に隣接した二十間坂の上に蟹屋が店を開き、店頭で自由の女神ふうな像を立てた。近くのカトリック教会やお寺の落ち着いたたまたまの中で、白いプラスチック製の大きな工作物は周囲の景観と不調和であるとして多くの人々の反対で撤去された。しかし、店自体が赤や金色の派手な看板、自動販売機やのぼりで目立つ。駅前の朝市の中にあるようなタイプの店が、およそ相応しくない場所に建てられたという実感だ。臭いやカラオケの音に対し、周辺から心配する声は今も聞こえてくる。

景観形成住宅等建築奨励金(公道に面して住宅を新築するか、新築の住宅を購入するとき、基準を満たした場合、費用の5分の1以内の額を助成。限度額200万円)を200万円支出した函館市の対応に

は甘さがあったのではないかと思う。景観や環境を守る為には、曖昧な解釈もできる誘導でなく、きめの細かい指導は勿論のこと、用途の制限などについての規制も検討して欲しい。

金儲けの手段にされ、その後は何年間も使われずに放置されている目を覆うばかりの建物や鉄パイプに囲まれた空地を見るたびに心が痛む。私有財産である土地や建物が及ぼす公共的空間への影響力について、所有者は無関心であってはならないと思う。過剰なプライバシー保護が円滑な土地や建物の流れを妨げていることもある。メリハリのある美しいまちづくり、国づくりの実現のために、土地や建物に関する法律に、新たな視点からの見直しや整備が加えられるように願っている。

2010年11月 河内 昌子

から第28号 発行/函館からトラスト事務局 発行年月日/2010年11月1日 編集/河内昌子
〒040-0001 函館市五稜郭町19-15 Tel/0138-52-8411(日昇商事内)
からトラスト公式ホームページ <http://www.h-nisshou.com/kara/>